

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市旭ヶ丘児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター
3 指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 17,381人（前年度比 83.0%） 令和元年度 20,953人 平成30年度 20,185人 平成29年度 21,135人 《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 37,238千円 （34,431千円） ・ その他市が負担した費用 0千円 （0千円） 《収入》 ・ 使用料収入 0千円 （0千円） ・ その他収入 0千円 （0千円） ()は前年度決算額
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、昨年度より、コロナ禍のために縮小しているが乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター）による自己評価》
<p>令和2年度は、コロナ禍による影響が大きかったが、より地域に必要とされる児童館を目指し、地域諸団体等との繋がりを大切に事業の充実に努めた。</p> <p><子育て家庭支援事業></p> <p>2020年6月より乳幼児親子の自由来館が一部再開し、7月からは人数を限定し、申込み制で乳幼児親子行事が再開した。年齢別や異年齢の通常行事に加え、食事セミナー、ベビーマッサージ、わいわいミニバザー、ヨガ（社会学級共催）なども実施し、充実したプログラム作りを目指した。</p> <p><児童健全育成事業></p> <p>2020年10月より小学生～高校生の自由来館が土曜日のみ再開し、「自由来館利用確認兼同意書」を提出した児童へ「自由来館利用者カード」を発行して自由来館の際にカードを提示してもらい、検温、手指消毒後、入館するシステムで、小学生の利用が少しずつではあるが増えてきている。</p> <p><地域交流推進事業></p> <p>児童館まつり、クリスマスコンサート、市民センターなどの近隣施設との共催事業も中止となり、令和2年度は地域交流が難しい年となったが、毎年地域の方をお招きして行っていた『囲碁将棋カーニバル』は、職員と児童クラブ登録児童で実施し、その様子を掲示板に掲示し、活動を知ってもらう機会を作った。また、同じく毎年地域の方と協力して行っていた『ハロウィン仮装パレード』も実施は見送ったが、児童クラブ登録児童が作成したハロウィンカードを地域の方へ職員が届ける活動を行った。</p> <p><放課後児童健全育成事業></p> <p>登録児童の増加が続いており、児童がより安全かつ快適に過ごせるよう、職員間で何度も協議を重ねながら運営を行った。また、学芸会などの行事が中止される中、子どもたちに発表の場を提供するため、『旭ヶ丘チャンネル』という行事を行った。司会・出演者・運営係・観客と、子どもたち一人一人が役割を担い、楽しみながら、ダンスやコントなどやりたいことを発表できる場となった。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、定例で開催している年齢別の「タイム」活動と内容別の「広場」活動があり、季節の工作や運動遊び、親子の触れ合い遊びやお話会など開催している。サロンの役割をもった母親対象の「ホットひといきタイム」では、リジン作りや骨盤エクササイズなど母親がリフレッシュできる企画を行っている。他にも、講師を招いた企画や社会学級との連携行事も充実し、食育セミナーや親子ヨガ、ベビーマッサージなど開催しており、コロナ禍で行く場所がなくて困っていた親子にとって母親同士の情報交換の場であり安心して遊べる場となっていた。このように母親のニーズに合った多彩なプログラムを提供しており多くの乳幼児親子を支援するための環境作りに努めている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、昨年まで小学生対象に行ってきた「地球探検隊」や「囲碁将棋カーニバル」「旭ヶ丘チャレンジ隊」を、児童クラブ児童のみの参加として取り組み、キャンプや工作、自然の中での活動など意欲的な行事を多く開催し、子ども達の興味関心を広げ自主性や社会性を育成するための活動として創意工夫がみられた。昨年新たに長期休み時に取り組んだ「旭ヶ丘チャンネル」は、自分たちのやりたいダンスやコントなど発表する場として設定し、子ども達が意欲的に参加し達成感を味わう経験ができるなど、自主性や社会性を育む環境作りに努めている。</p>	S

その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項